

学校教育目標	未来を拓き 人間力豊かに 学び続ける高見っ子の育成		
a ミッション	〇小中連携教育を基盤としたカリキュラム・マネジメントの推進による 主体性・表現力の育成	a ビジョン	人間の根っこを育てる学校づくり

尾道市立高見小学校

評価計画						自己評価					学校関係者評価				改善計画
	b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案
						g 達成値	g 達成値				イ	ロ	ハ		
気付き、考え、行動する子供の育成 (主体性・表現力・関わり合い)	関わり合いを通した主体的な学びの確立	主体的に学習に向かう児童の育成。	主体的に学習に向かう児童の育成のために「? (はてな)」をもたせるための教科研究を行う。	自ら問題を見付け、解決に向けて主体的に学ぶことができた児童の割合 (児童アンケート)	80	83		104	A	・理科の授業を中心に児童が「? (はてな)」をもち、主体的に学ぶことのできる授業づくりに取り組んだ。1学期末児童アンケート「理科の授業の中で、自分なりの「? (はてな) (疑問や課題)」をもちながら学習を進めた」という項目に対し、肯定的回答をした児童の割合は83%であった。 ・広島大学大学院教授 木下先生を招聘し、児童の学びをつなぐための授業づくりについてご指導いただいた。 ・理科以外の教科でも、児童が「? (はてな)」をもち、主体的に学ぶことができる授業改善に取り組んでいく。	3			・自ら問いを立てることを通して、知的好奇心を高める活動となっていると評価できる。 ・「どうしてなんだろう」「もっと知りたいな」「友達の意見に納得」「おもしろいな」と子供たちが感じる授業づくりがしたいというのは永遠のテーマの様な気がします。 ・低学年に対しては、授業のすすめ方が難しいこともあると思いますが、子供が自分から意見を言いやすい環境作りをされているように思います。	・校内研修や授業公開を通して、他教科での「? (はてな)」をもたせるための授業研究を充実させる。 ・月1回程度、授業づくりについて、各学級の実践や悩みなどを交流する機会をつくる。
			基礎的・基本的な学力を高めるために、「指導と評価の一体化」を図る。	国語科・理科単元末テスト (知識・技能) における平均通過率	85	国語85.2 理科88.9		国語100 理科105	A	・国語と理科においては、日々の学習の積み重ねが、知識・技能の定着につながっている。 ・国語については達成できなかった学年もあり、児童の学力差に課題がある。漢字の読み小テストを実施し、日々の学習の定着を見取りどの児童にも「できた」という自信をつけさせたい。 ・辞書やタブレット、あいうえお表やローマ字表などを身近に持っておくことで、いつでも言葉を調べられる環境を整え、語彙力や表現力を高めたい。 ・国語科の時間に、速読・音読・黙読等読むバリエーションを増やすことで、読む力を育成していきたい。	3			・学力の基礎・基本は十分であると考えます。一部の学年で学力が低いので、全体的なフォローをお願いします。 ・力がついていっていると感じます。朝読書も素晴らしいし、先生が少しずつ読んであげるのも子供は、楽しんでくれます。 ・朝読書の取組はとても良いと思います。保護者からの本の寄贈なども検討して頂ければありがたいです。	・漢字の読み小テストを定期的を実施し、日々の学習の定着を図る。 ・学力補充の時間を設定し、担任以外の教員も一緒に学力向上に向けた取組を行う。
	自己を振り返り、よりよく生きようとする態度の育成	人との関わり合いを通した、相手意識をもった人間関係の形成	「しまっこしぐさ」を基盤とし、発達段階に応じたあいさつを通して相手意識をもったあいさつができるようにする。	毎月のあいさつ週間カードの「振り返り」に、「友達のよいあいさつ」を見つけた児童の割合	80	76		95	B	・1学期当初は児童もよく挨拶をして、目標値を達成しているが、6月7月と挨拶をする児童が減っていたという気がしが複数の職員からあがり、実際に数値も目標を下回っている。あいさつ週間はいいさつをがんばっているが、普段から自然とあいさつがあられるよう、学校として、担任も担任以外も、児童にあいさつの指導・声かけを続けていく。また、生活集会などで、よくあいさつをする児童などを紹介したい。ただ、登校時の挨拶は、様々な言語での挨拶を交えながらよく挨拶できるようになってきている。今後もしっかりと取り組んでいく。	2	1		・通学路における登下校時には、しっかりと挨拶をしている子供も多かったように思います。地域の人から、褒めてもらえるような場面をもっと作らないといけないと感じました。 ・「先生、あのね」のように子供の本当におもしろい言葉もアンテナを働かせて拾ってあげてください。 ・学校内で子供たちが元気に挨拶してくれるのが素敵だと思います。	・生活集会で、良いあいさつの児童を紹介する。 ・校内放送であいさつについての意識付けを行う。 ・児童会などの活動を通じて、あいさつ週間の充実を図る。
			成果を実感できるよう、生活上のめあてを明確にし、それを意識した振り返りをさせる。	生活リズムチェック表において、早寝・早起きを達成できた児童の割合	80	85		106	A	・目標値は達成しているが、寝る時間を守れている児童が比較的少なかった。特に、金曜日や土曜日の夜は寝る時間が遅くなる傾向が見られる。メディアとの向き合い方にもつながることなので、保健指導や保護者との連携を行っていく。	3			・現代の子供たちにとって、生活リズムを守ることは大切だと思います。 ・自分もスマホに毒されている生活で、抜け出すことは大変だし、どのように変えていこうかと苦慮しています。子供も大人も手立って難しいです。 ・メディアとの向き合い方は家庭内での方針もあり、指導が難しい面もあるかと思います。健やかな発達のための環境作りと実際の生活リズムとの折り合いをつけるのに大変な思いがあると思います。	・5・6年生には、PTAによる教育講演会においてSNSの使い方について話をしてもらい、知識を広げる取組を行う。 ・保健指導の中で、生活のリズムをしっかりとしたさせる指導を行う。
		自らの生活を振り返り、よりよく生活しようとする態度の育成	体を動かす機会を作り、友達と体を動かす楽しさを感じさせることで、運動好きな児童を増やす。	体を動かすことに肯定的な児童の割合 (児童アンケート)	80	94		118	A	・運動をすることに肯定的な回答をする児童が9割以上であった。児童会による異学年交流を行ったことや、アンケートをとる際に「運動」の具体例を挙げることでイメージしやすく工夫したことが理由と考えられる。体を動かすことに楽しさを感じている児童が多いので、現在の取組を継続し、児童が主体となって企画・運営を行えるようにしていく。	3			・気候が大変な中、子供たちの体調も見ながら、体を動かす機会を作って下さり、ありがとうございました。 ・アンケートの仕方の工夫がとても良かったです。また違った視点ももてました。 ・休憩時間に遊びに誘ってもらえること、また、運動会などで「できた」「順位」だけにとらわれずに「楽しむ」という視点をもてる指導をしていただいたことが素敵だと思いました。	・「自分が頑張ったこと」について、しっかりと褒めたり、認めたり、友達からも認められる場を設定したりして、自信をもって取り組めるようにする。 ・現在の取組を継続して行くとともに児童が主体となって取り組める場や機会を設定する。

【自己評価 評価】
A：100≦ (目標達成)
C：60≦ (もう少し) <80

B：80≦ (ほぼ達成) <100
D：(できていない) <60

【外部評価】 イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。 ハ：わからない。